

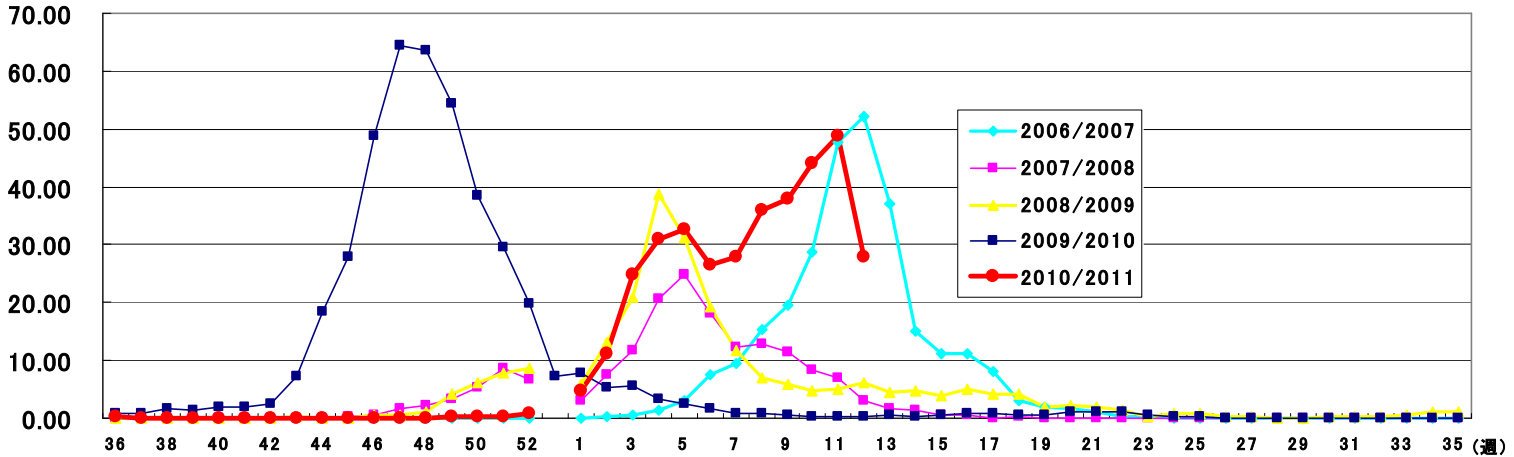
インフルエンザの流行状況について(5)

※山口県のインフルエンザの定点あたりの報告数は第4週に30以上となり、県では2月4日付けでインフルエンザ流行発生警報を発令しています。第12週は5週ぶりに減少しました。

1. 流行状況

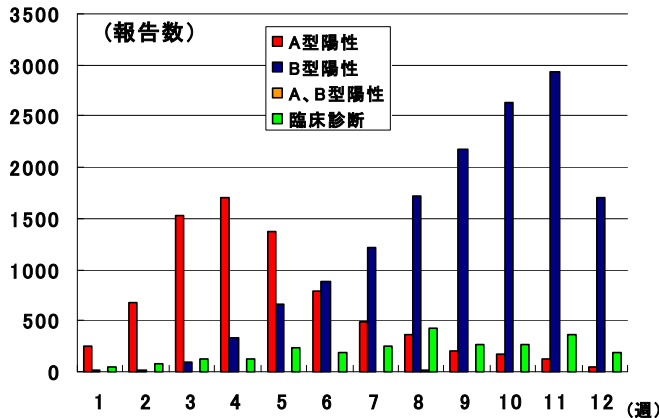
各シーズンの発生動向をグラフにしたものです。今シーズンは第1週頃から急増し第6週に一旦減少した後に再び増加を続け、第11週は最多報告数となりましたが、第12週は5週ぶりに減少しました。

(定点当たりの報告数)



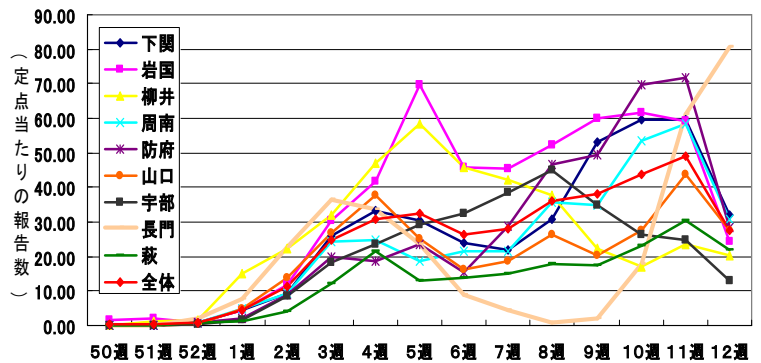
2. 迅速検査の結果

1月はA型陽性が多くみられましたが、第7週以降はB型が多い状況です。



3. 地域別発生状況

長門地域は大幅に増加しましたが、その他のすべての地域では減少しています。



4. 地域別発生状況

2の迅速検査でA型陽性>B型陽性であった第1~5週と、A型陽性<B型陽性であった第7~12週の年齢構成を比較したものです。15歳以上ではA型流行時の方が割合が高いのに対して、5~14歳はB型流行時に割合がより高くなっています。

